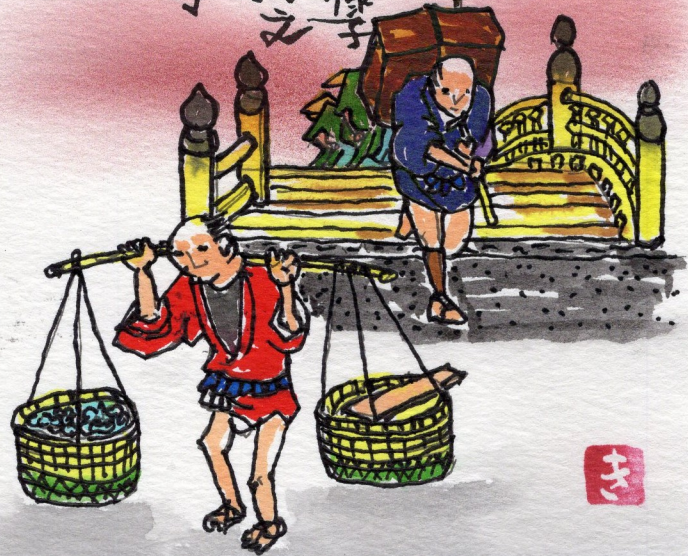


日本橋

腰の景

参勤交代の大行列が
朝早く江戸を出発する様子
魚河岸から仕入れを終え
行高に出かける様子

東海道五十三次



ま

品川

しながわ

ひのぞ

御殿山を通過する大行列
最後尾と朝焼けの江戸港
品川宿は国光明媚知られる

東海道五十三次



ま

川崎

六郷渡舟

暴れ川と知られる六郷川
一服する商人や旅次の武士など
どかな渡し場の風景
岸の奥に見える川合所
渡し賃を支払う様子が
見えます

東海道五十三次



ま

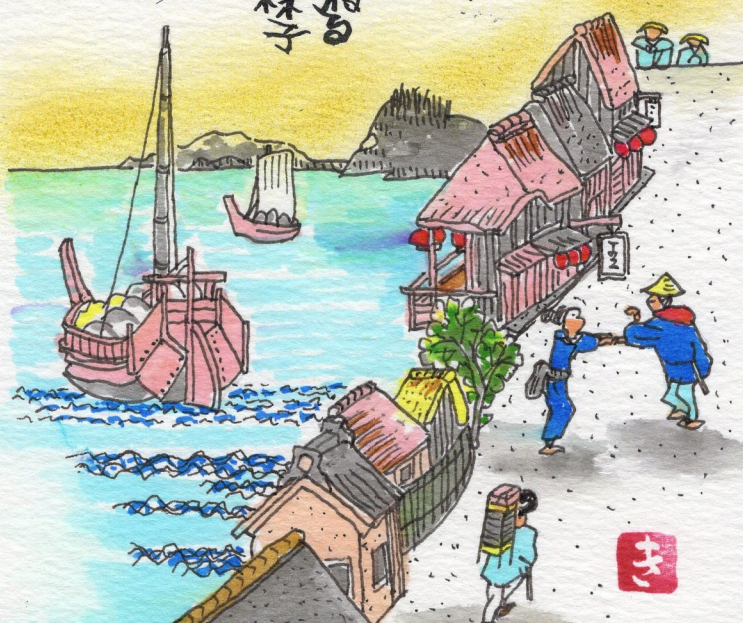
神奈川

かながわ

だいのけい

この景とはさながらのこと
大船が行きかう江戸湾
茶屋や料理屋が軒を連ねる
宮引き舟に張はられる様子
大海原に向う廻船の
景色

東海道五十三次



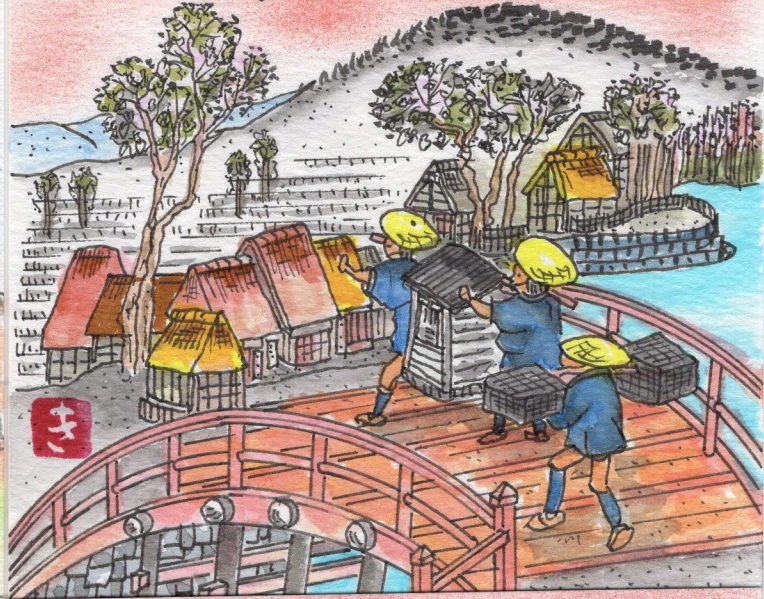
ま

保工谷

新町橋

帷子川に架けられた新町橋を渡ると保土谷の宿です。江戸を出て最初の本陣が保土谷です。のどかで静かな宿場の雰囲気です。

東海道五十三次

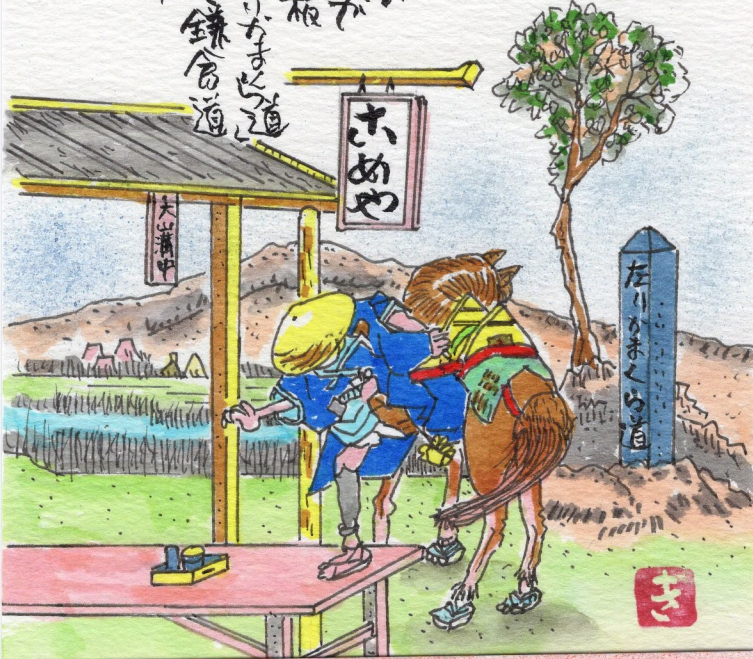


戸塚

もとまちべつどろのりき道

早朝に日本橋をたて健脚が戸塚到着する頃夕景が描かれています。三ツ木の看板が目立つ茶屋の標は「たけなす」道とあり、ここは鎌倉へ抜ける鎌倉道と東海道との岐点です。

東海道五十三次



平塚

縄手道

唐ヶ原のくねたあぜ道の先に平塚の宿場があります。丸い形をした高麗山、勢よく走る徳御大蔵方面から来ます。

東海道五十三次

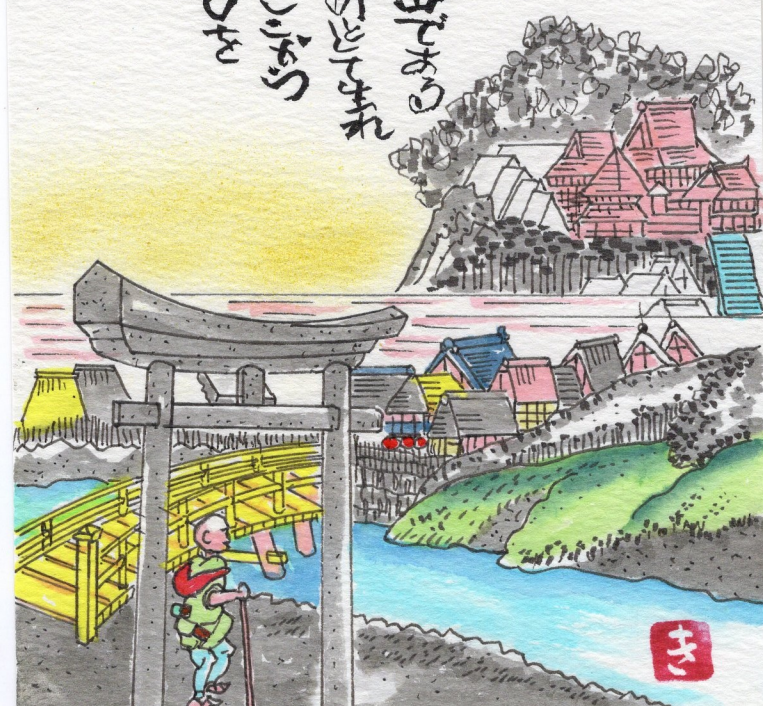


藤澤

遊行寺

藤澤は時宗の親本山である清浄光寺の門前町として、正面には大鳥居はここから江島弁財天の入り口を示しています。

東海道五十三次



小田原

酒匂川

酒匂川は富士山東側から
小田原を経て相模湾に注ぎす
春から夏にかけて増える酒匂川
には人足がいきました人足四人ど
担ぐ平たん八十数人かぎりの
大木を川を渡る方法も
渡し賃次第でした。

東海道五十三次



ま

大磯

虎ヶ谷

虎ヶ谷とは虎御前が十郎
をこのんで流す雨のことで
陰暦の5月の終りの頃降る
雨のことです。この雨の光を
思わせる黄ばんだ空海面
の濃い藍、墨色のぼかしなど
配色が印象的です。



ま

三島

朝霧

朝霧の中三島神社の
前を行く旅人の姿を
見ごとに表現して寺
朝の肌寒さが伝わる
箱根へと向う途中です。

東海道五十三次



ま

箱根

湖水

東海道最大の難所
先肌を露出した険しい三山
カラフルな彩色でぞり立つ山
静かに雄大に広がる芦湖
箱根から見える富士山も
また素晴らしいです。

東海道五十三次



ま

沼津

たそがれず
暮れど

三島宿から狩野川沿いの街道を
是早に三枚橋に向かう
親子連れの流れが
ます。背中には巨大な
天狗面。三枚橋を渡ると
沼津宿の東の入りです

東海道五十三次



ま

原

あさのふじ
朝富士

原宿を出てもなく湿地帯の
ような沼地々原があるが
ここから見る富士山は巨大で
均整のとれた優美な姿
朝焼けの神々しい雄大な存在感
二頭の鶴が季節感を添える
冬の朝の澄んだ空気感を
感じます

東海道五十三次



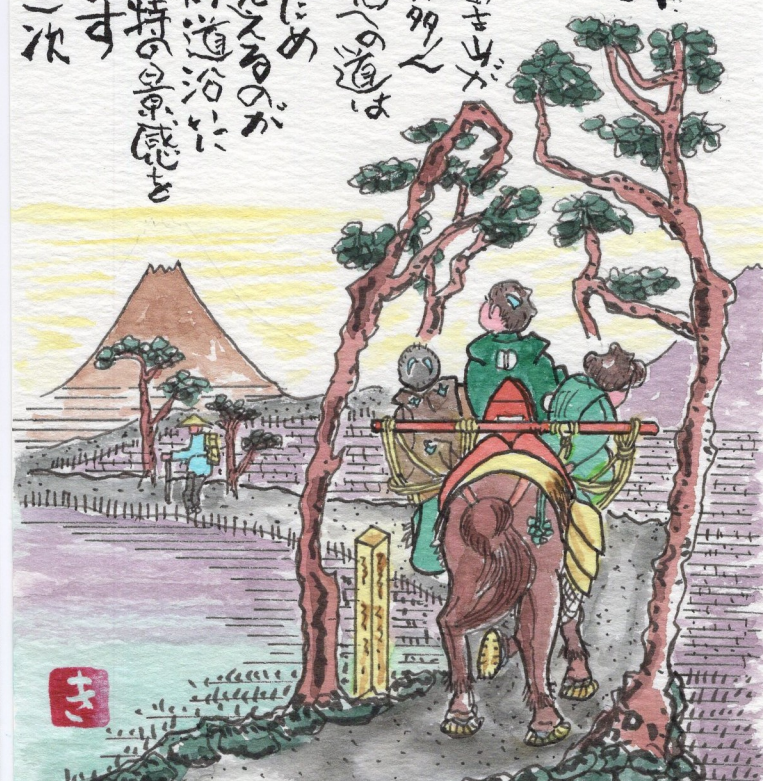
ま

吉原

左富士

左側の富士は富士山が
右側に隠れるのが
あり事がある宿への道は
大に湾曲してため
富士山が左側に見えるのが
珍らしいですね街道沿に
続く松並木が独特の景観を
作り出しています

東海道五十三次



ま

蒲原

よあけ
夜之雪

淋し蒲原の宿場の風景
人影も少ない夜の街道
音もなく深々と降る雪の情景
傘を半開きにして杖を突き
足には雪下駄で慎重な足どり
素晴らしい構図です

東海道五十三次



ま

興津

おきつがわ
興津川

薩埵峠を越えるとい底の
浅い興津川にもよります
馬にのりかまの旅姿が
千もえで今にもカゴの
はみだんばかりに
描かれています

東海道五十三次

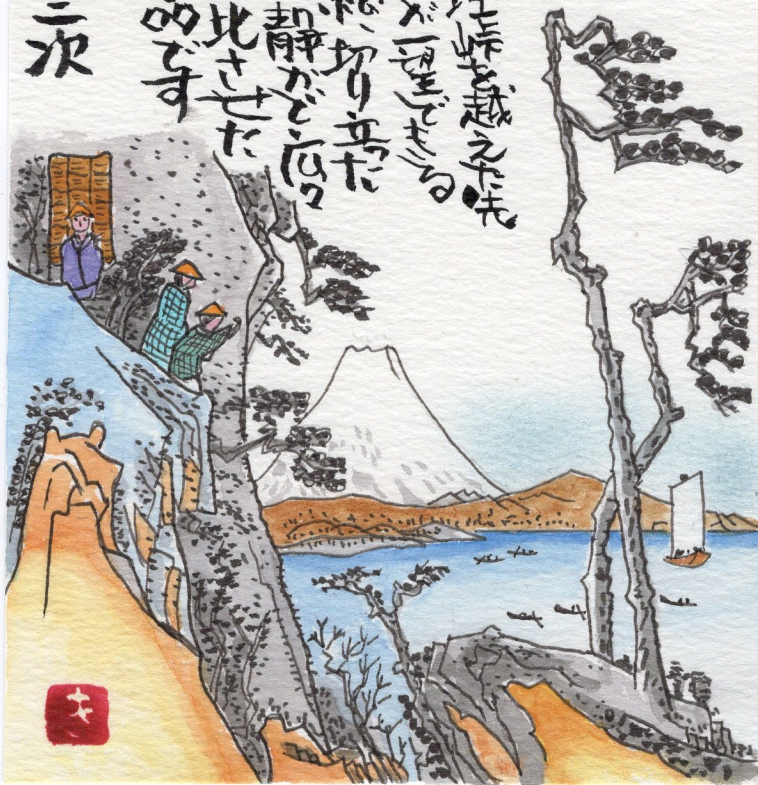


由井

さつたれい
薩埵峠

難所である薩埵峠を越えた先
富士山と駿河湾が一望できる
地と山を描いた絵、切り立た
山道の険しさと静かなど、
とことな海上と対比させた
素晴らしい作品です

東海道五十三次

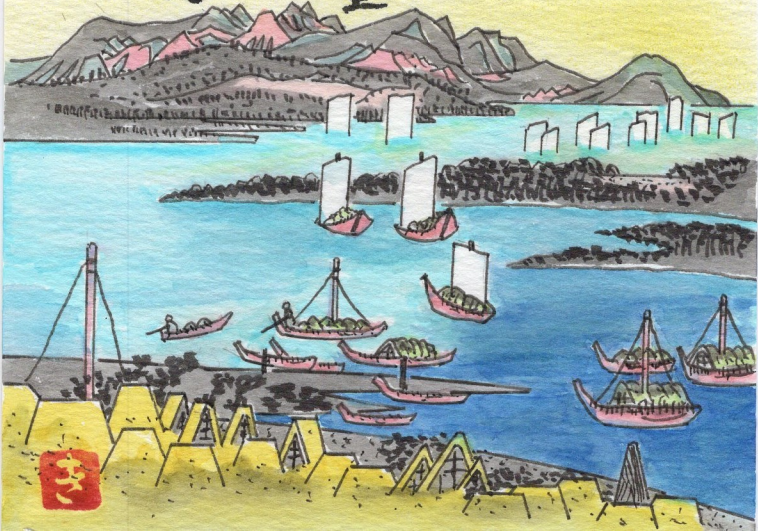


江尻

みほのえんげう
三保遠月主

家康が埋立てた東照宮
ある久能山から清水港を眺望
した絵です港内にはもやが
停泊三保の松原清水町江津
の愛鷹山駿河湾の向うには
伊豆半島も見えます

東海道五十三次



府中

あべかわ
安部川

駿府とよばれ家康が晩年
を過ごした所駿河湾と
注ぐ安部川を渡る旅人
様子を克明に描きます
かぶに集る女性、馬を使て
荷物を渡す人渡し賃によて
色々な渡り方がります

東海道五十三次

